

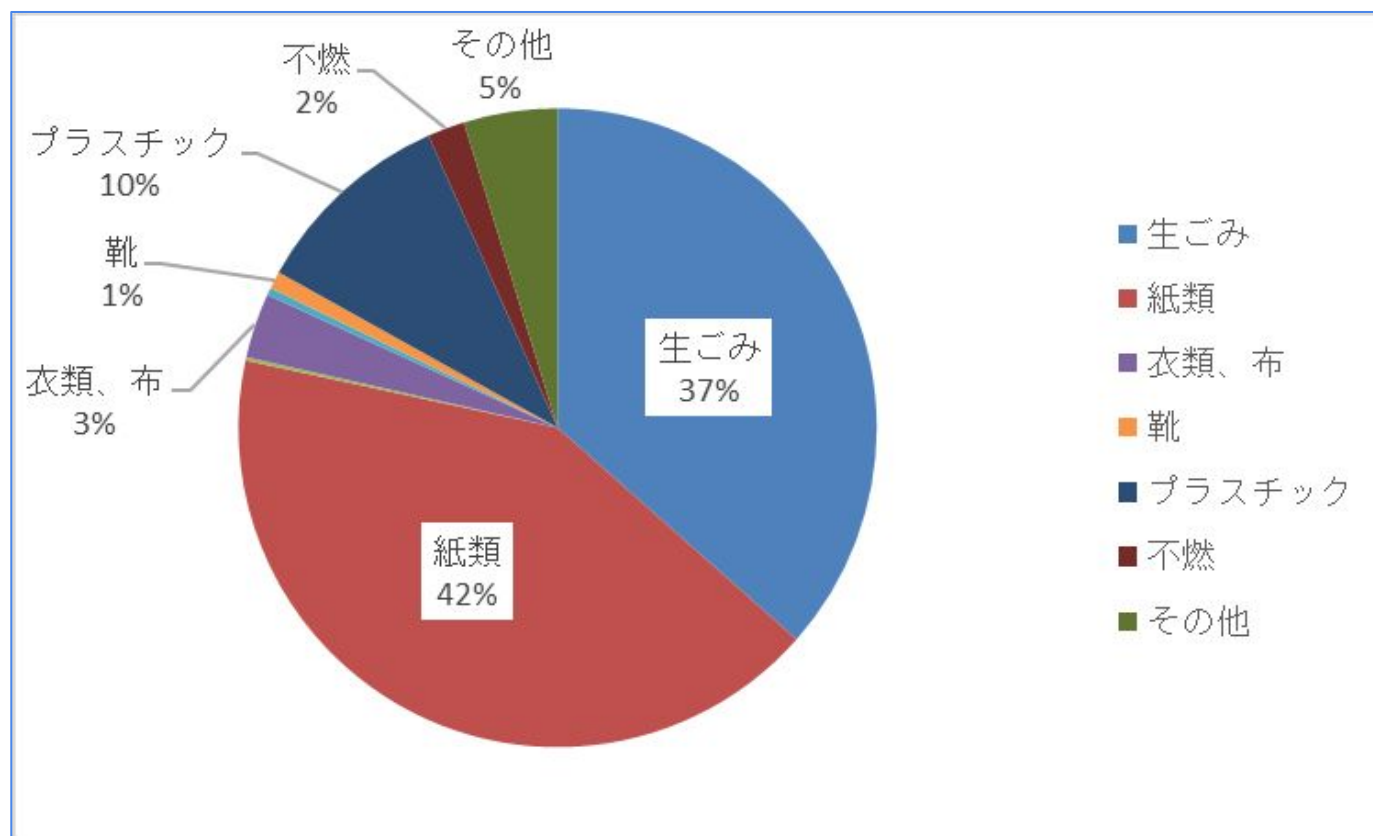
可燃ごみ組成調査結果

可燃ごみ組成調査について

- ・袋サンプリングによる可燃ごみの組成調査
- ・地域の可燃ごみステーションから袋ごとサンプルを収集し、ごみを分類
- ・排出時の家庭ごみの状態を調査することにより、食品ロスや紙ごみの状況を把握し、
今後のごみ減量の資料とすることを目的
- ・令和3年、令和4年、令和6年に実施

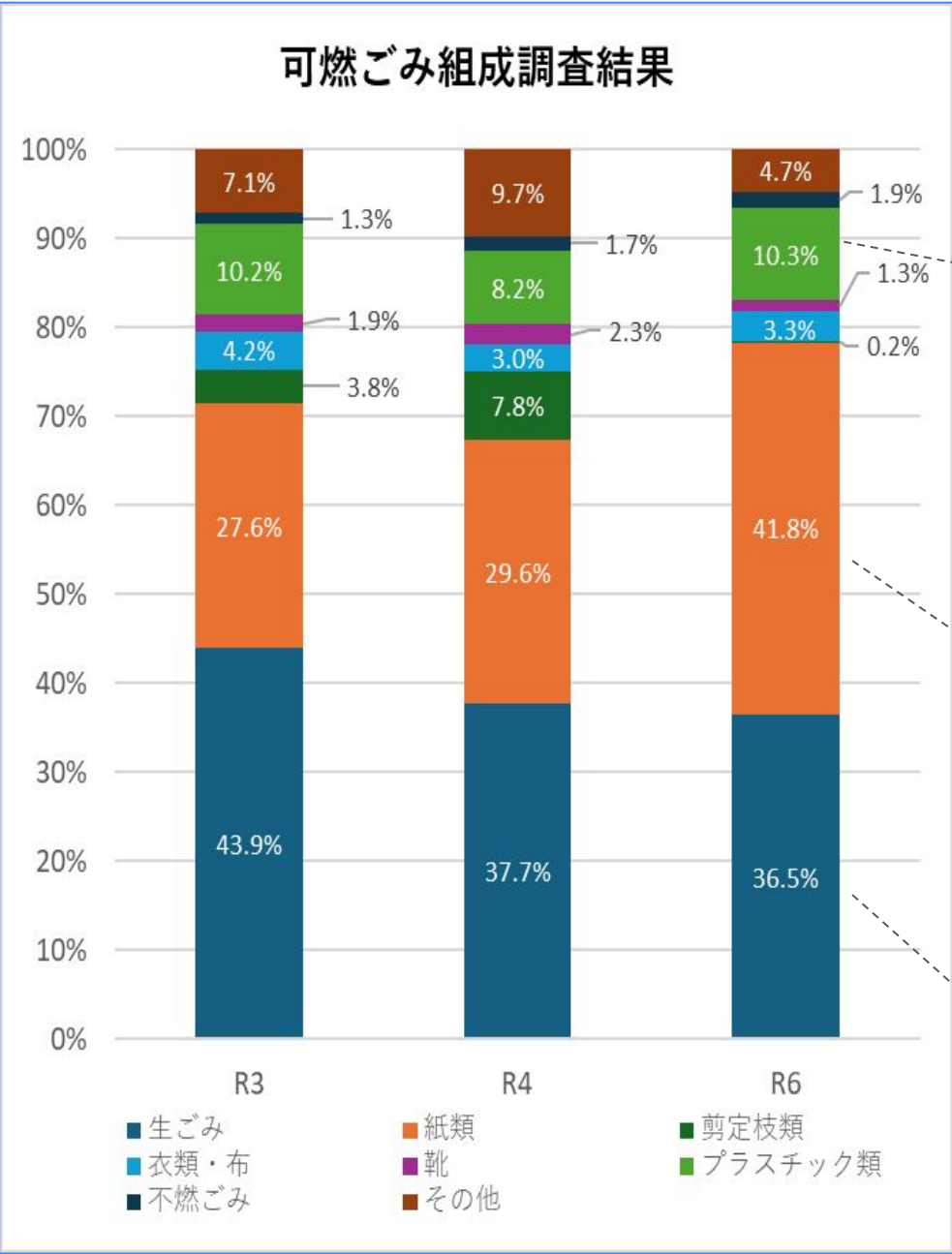


令和6年度調査結果



分類	割合
生ごみ	37%
紙類	42%
剪定枝類	0%
衣類、布	3%
カバン	0%
靴	1%
プラスチック	10%
不燃	2%
その他	5%

可燃ごみ組成調査結果の比較(R3、R4、R6)



●令和6年度調査結果の細分化

プラスチック類 (10.3%)	プラスチック容器類	0.9%
	プラスチック包装・袋類	8.5%
	プラスチック製品	0.9%
紙類 (41.8%)	新聞	14.8%
	段ボール	0.5%
	その他の紙	7.7%
	再生不可な紙類	18.8%
生ごみ (36.5%)	食品ロス	16.0%
	非食品ロス	20.5%

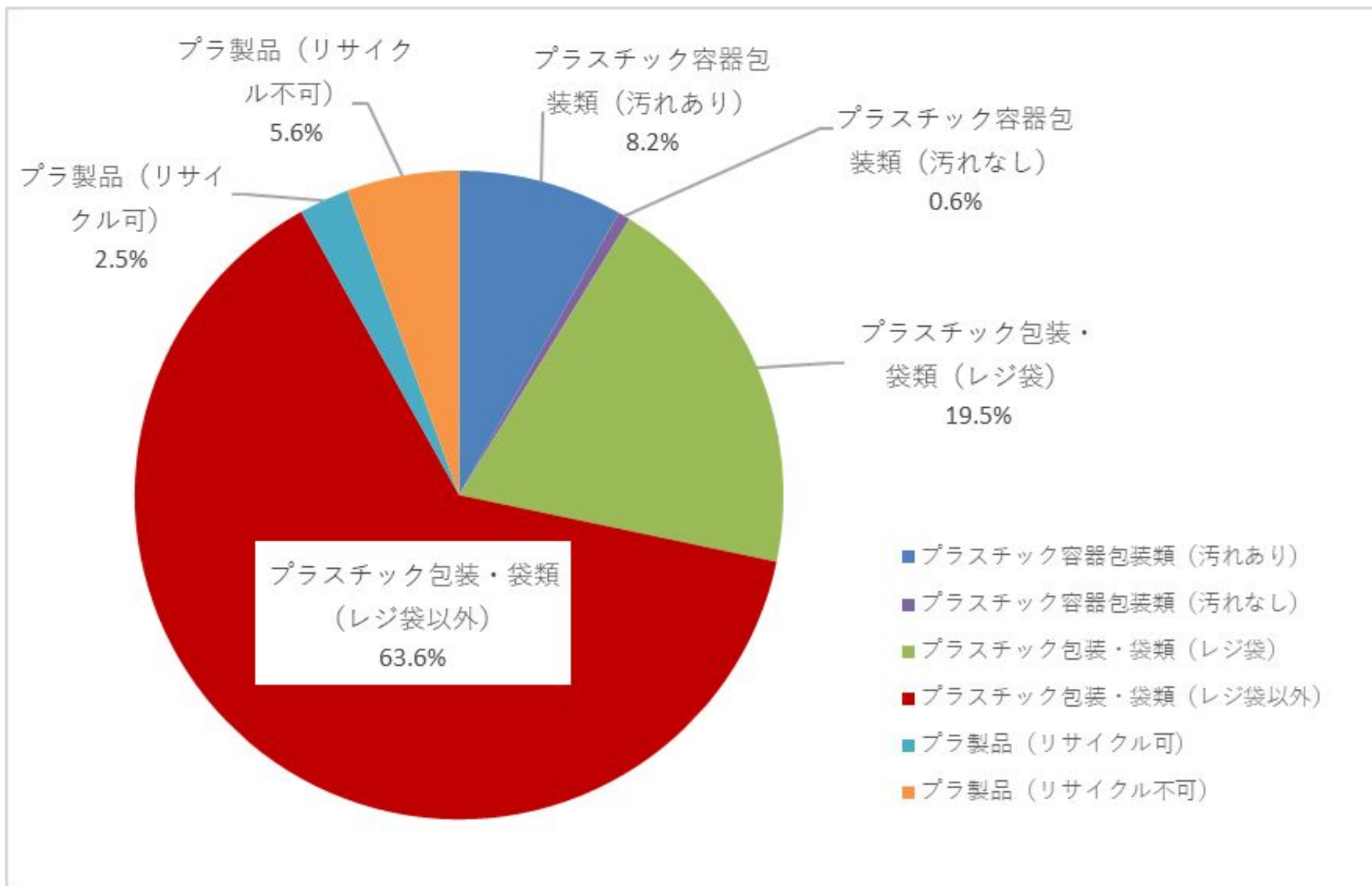
組成調査結果の推移(R3、R4、R6)

大分類	中分類	R3	R4	R6
プラスチック類	プラスチック容器類	0.8%	0.8%	0.9%
	プラスチック包装・袋類	9.1%	6.0%	8.5%
	プラスチック製品	0.3%	0.4%	0.9%
	合計	10.2%	7.2%	10.3%
紙類	新聞	2.6%	5.5%	14.8%
	段ボール	0.5%	0.7%	0.5%
	その他の紙	10.1%	9.0%	7.7%
	再生不可な紙類	14.4%	11.1%	18.8%
	合計	27.6%	26.3%	41.8%
生ごみ	食品ロス	17.1%	14.7%	16.0%
	非食品ロス	26.8%	20.4%	20.5%
	合計	43.9%	35.1%	36.5%

【R6年度の結果について】

- R3年・R4年の結果と比べると新聞紙の割合が特に多かった。
- 新聞紙の中には調理くずや食べなかった食品をくるんで捨てられていた物もあり、すべてが再利用できるものではない。
- 食品ロスの割合はR3年と比較すると減少している。

可燃ごみ中のプラスチックごみの内訳(組成調査結果より)



清掃事務所における組成調査

- 清掃事務所で焼却するごみの一部を採取し、裁断してごみを分類・計量
- 焼却施設の運転管理やごみ質の把握に活用
- 施設搬入後に試料を採取するため、家庭系と事業系のごみが混在すること、清掃活動による草木などのごみも混在することなど、前述の組成調査との違いに留意
- 排出時のごみの状態が分からないため、食品ロスや紙ごみの実態把握は不可
- 前述の組成調査に比べ、草木類や衣類の割合が高い。

■清掃事務所 ごみ分析結果(%)

	R1	R2	R3	R4	R5	平均
紙類	37.9	37.0	53.0	41.7	44.9	42.9
厨芥類	22.9	10.4	17.8	25.2	22.7	19.8
プラスチック類	10.5	17.9	13.8	12.9	12.8	13.6
木・竹・わら類	12.7	16.2	6.9	10.3	6.9	10.6
陶器・石類	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.1
布類	7.4	10.4	6.3	5.8	6.5	7.3
その他(細塵)	6.2	6.9	1.5	3.8	5.9	4.9
金属類	1.2	0.5	0.6	0.2	0.0	0.5
ゴム・皮革類	1.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3
ガラス類	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1

■ごみ分析結果(5年平均)

